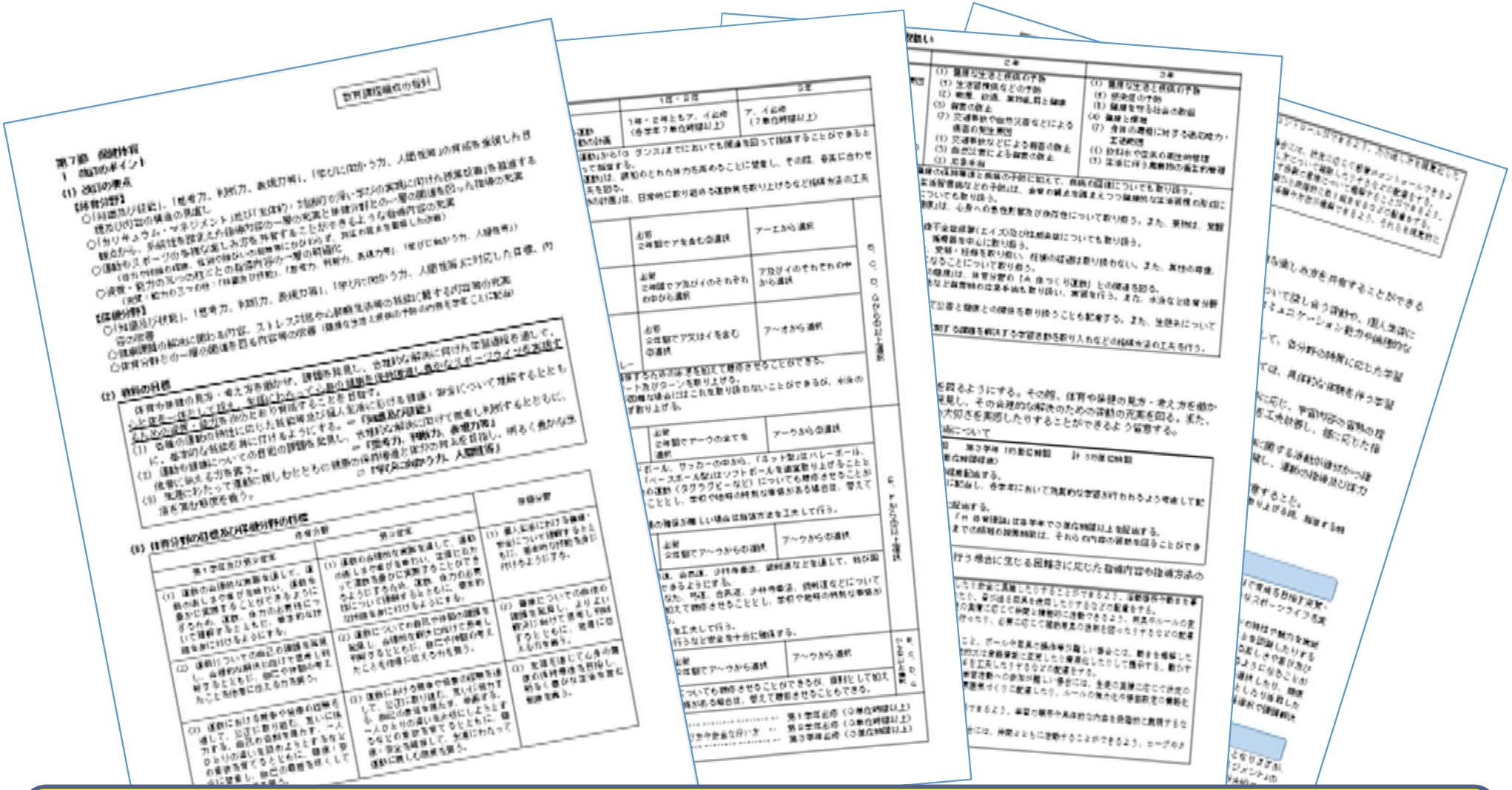
中学校
保健体育

事例を通した評価の具体例

1、各教科の改訂のポイント（教育課程編成の指針）



神奈川県教育委員会HPよりダウンロード可能

2、学習評価について

中学校　保健体育

＊以下、本スライドに掲載されている右上のページ番号は、右の参考資料より抜粋

体育分野

２ 各事例概要一覧と事例（体育分野）

事例１（＊本資料掲載事例）
●指導と評価の計画から評価の総括まで
第１学年　「球技（サッカー）」

事例２（＊本資料掲載事例）
●「知識・技能」の評価
第１学年　「器械運動（マット運動）」

事例３
●「思考・判断・表現」の評価　第２学年　「武道（柔道）」

事例４
●「主体的に学習に取り組む態度」の評価
第３学年　「ダンス　（創作ダンス）」

学習指導要領　内容

知識及び技能

（1）次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを　展開すること。

ア　ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻　防をすること。

イ　ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ　ベースボール型では，基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。

思考力、判断力、表現力等

（2）攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

学びに向かう力、人間性等

球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ること。

評価規準の文末表記 ＋

知識 技能	～について理解している ～できる
思考・判断力・表現	～課題を発見し ～を工夫するとともに ～を他者に伝えている
主体的に学習に 取り組む態度	～している ～気を配っている

内容のまとまりごとの評価規準

知識・技能

○知識
　球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などについて理解している。
○技能
・ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができる。
・ネット型では，ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防ができる。
・ベースボール型では，基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防ができる。

思考・判断・表現

攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

主体的に学習に取り組む態度

球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどをしたり，健康・安全に気を配っている。

○単元の評価規準

○学習活動に即した評価規準

内容のまとまり

体育分野 第１学年及び第２学年 第３学年	A　体つくり運動
	B　器械運動
	C　陸上競技
	D　水泳
	E　球技
	F　武道
	G　ダンス
	H　体育理論

体育分野　第１学年及び第２学年

内容のまとまり	単　　元	内容のまとまり	単　　元
領　　域	領域の内容	領　　域	領域の内容
A　体つくり運動	ア　体ほぐしの運動	E　球技	ア　ゴール型
	イ　体の動きを高める運動		イ　ネット型
B　器械運動	ア　マット運動		ウ　ベースボール型
	イ　鉄棒運動	F　武道	ア　柔道
	ウ　平均台運動		イ　剣道
	エ　跳び箱運動		ウ　相撲
C　陸上競技	ア　短距離走・リレー、長距離走 又はハードル走	G　ダンス	ア　創作ダンス
			イ　フォークダンス
	イ　走り幅跳び又は走り高跳び		ウ　現代的なリズムのダンス
D　水泳	ア　クロール	H　体育理論	(1)　運動やスポーツの多様性
	イ　平泳ぎ		(2)　運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方
	ウ　背泳ぎ		
	エ　バタフライ		

○単元の評価規準
○学習活動に即した評価規準

＊一緒にする

・評価とつくものがたくさんある
・できるだけ評価という言葉を少なくし、簡略化
・現場の先生方が、作成するものが多く大変
・評価（方法）の精選

○「単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）」

（＊以下、単元の評価規準）

・カリキュラムマネジメントの視点を入れる

単元の評価規準とは

全ての「単元の評価規準」

○内容のまとまりごとに示されている**解説の例示**の文末を変換して作成

＊「知識及び技能」の例示
＊「思考力、判断力、表現力等」の例示
＊「学びに向かう力、人間性等」の例示

（学習に即した評価規準）という言葉は、慣れてきたら取る方向で

「単元の評価規準」

○その単元で扱う指導事項に対応した評価規準を選択

単元の評価規準を作成するために

中学校の保健体育（体育分野）

第１学年及び
第２学年

第３学年

〇１、２年は２学年のまとまりで内容と目標が示されている。
〇２年間分を通して、指導内容を考え、それに基づいた評価をしていく

単元の評価規準を作るときに、
まず、「全ての評価規準」を作成する

保健体育科（体育分野）事例１

P54

キーワード：

指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名　球技：ゴール型（サッカー）　第１学年

内容のまとまり

第１学年及び第２学年「E　球技」

2　「単元の評価規準」の作成及び指導と評価の計画の作成

P54

手順１

内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置付ける

事例のA中学校では、学習指導要領の球技の内容の取扱い「アからウまでを全ての生徒に履修させること」としていることを踏まえ

第１学年　①ゴール型　②ネット型
第２学年　③ネット型　④ベースボール型　⑤ゴール型

図１ A中学校における年間指導計画の例

P54

学年	時間	週＼月	4			5				6				7		9				10				11				12		1			2			3	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年及び第2学年	105		オリエンテーション	理論〔1〕	陸上競技〔10〕短距離・リレー(5)ハードル(5)			① 球技・ゴール型 バスケットボール・サッカー選択 2クラス2展開〔10〕				水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択〔10〕 ＊外部指導者のTTによる協力				武道 （柔道・剣道のいずれかを選択） 2クラス2展開〔14〕 ＊外部指導者のTTによる協力				器械運動 マット運動(7) 跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動より 1選択(7) 〔14〕				② 球技・ネット型 バレーボール・テニス選択 2クラス2展開〔8〕				スケート〔6〕集中	
			体つくり運動（4～集団行動含む2）						保健(1)健康の成り立ちと疾病の発生要因／生活習慣と健康〔4〕				体つくり運動(2)	理論〔1〕	保健(2)心身の機能の発達〔6〕				保健(2)心の健康〔6〕				陸上競技 長距離走〔4〕				理論〔1〕	体つくり運動〔3〕組み合わせ								
	105		体つくり運動〔3〕	陸上競技 跳躍種目選択 走り高跳び・走り高跳び 2クラス2展開〔8〕				③ 球技・ネット型 バレーボール・バドミントン選択 2クラス2展開〔10〕				水泳 クロール・平泳ぎのいずれかを含む2以上選択〔10〕				④ 球技・ベースボール型 ソフトボール① ソフトボール② 2クラス2展開〔12〕				ダンス 現代的なリズムのダンス(9) ・フォークダンス(9) 2クラス2展開〔18〕 ＊外部指導者のTTによる協力								⑤ 球技・ゴール型 ハンドボール・サッカー選択 2クラス2展開〔10〕				スキー〔6〕集中	
				理論〔1〕	保健 (1)生活習慣病などの予防／喫煙、飲酒、薬物乱用と健康〔8〕								体つくり運動〔2〕	理論〔1〕	保健 (3)傷害の防止〔8〕								陸上競技〔4〕 長距離走				理論〔1〕	体つくり運動〔3〕組み合わせ								

手順２　２年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する

P55

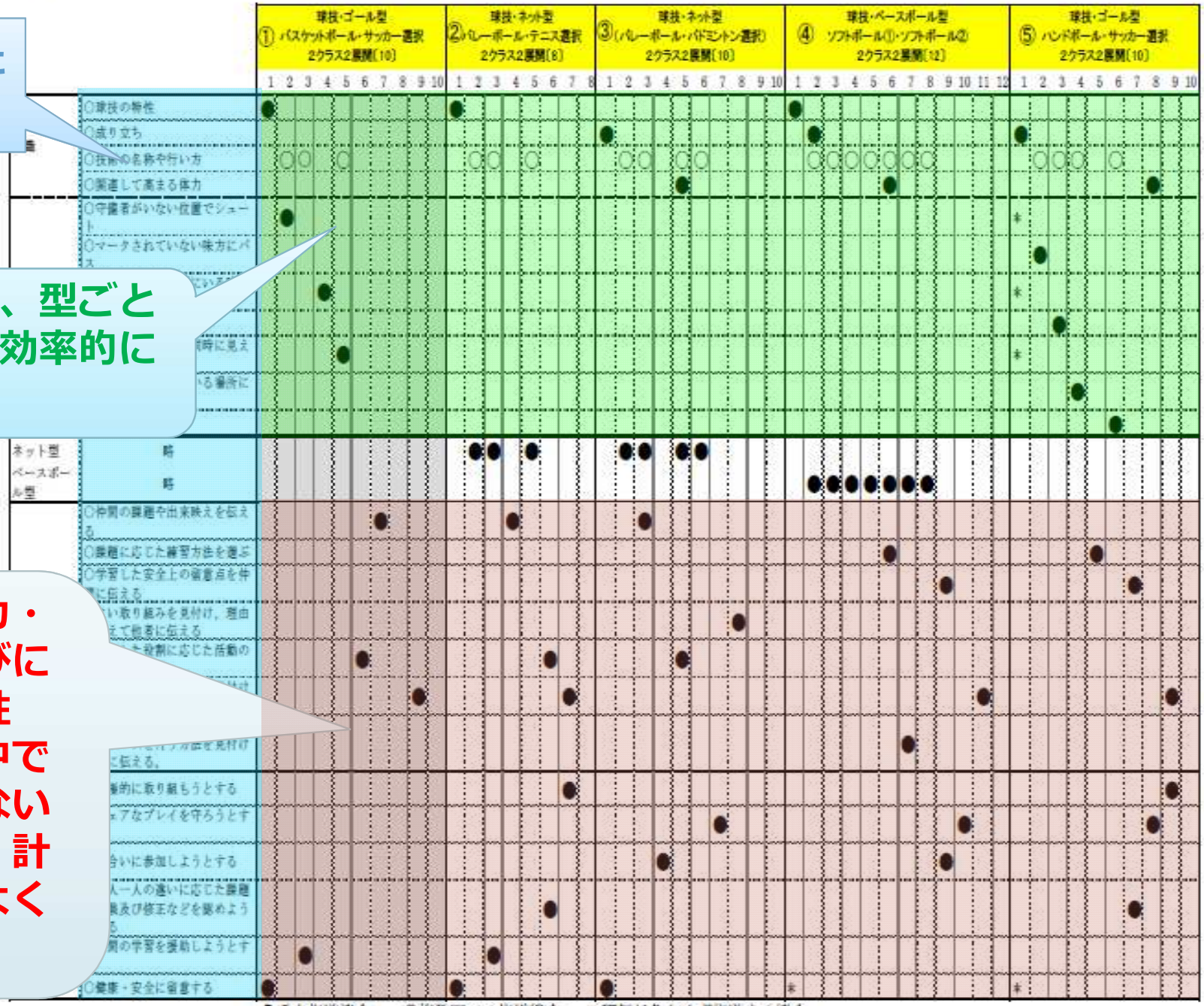
・解説の例示等で示された２年間の指導事項
　→①～⑤の指導機会における実施時期や配当時間を踏まえ指導事項を配置

・ゴール型２回、ネット型２回、ベースボール型１回の指導機会

・「知識及び技能」は、型ごとに指導するので効率的に取り上げる
（①のゴール型で「球技の特性」、⑤のゴール型で「成り立ち」と分けて指導など）

・「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」で示される具体的な指導事項は、内容のまとまりに対して示されていることから、意図的、計画的に配置

図２　球技における２年間を見通した指導事項の配置の例



例示等で示された
2年間の指導事項

「知識・技能」は、型ごとに取り上げるので効率的に配置する

「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」は、球技の中で指導事項が偏らないように、意図的、計画的にバランスよく配置する

手順３　例示等を基に、1,2年「球技」の全ての「単元の評価規準」

P56

①　「～言ったり書きだしたりしている」
これは、一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導で大きな相違がないもの

②　「～学習した具体例を挙げている」
これは、学校や生徒の実態に合わせて指導する教師によって取り扱われるもの

表１　第１学年及び第２学年「球技」の全ての「単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ・球技には，集団対集団，個人 個人で攻防を展開し，勝敗を う楽しさや喜びを味わえる特性 があることについて，言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され，今日では，オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて，言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において，技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて，学習した具体例を挙げている。 ・球技は，それぞれの型や運動 目によって主として高まる体 要素が異なることについて，学 習した具体例を挙げている。	・マーク 味方にパスを出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために，ゴール	・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から，自己やチームの課題に応 た練習方法を選んで ・学習した安全上の を，他の学習場 め，仲間に伝え ・練習やゲームの 善を尽くす， イなどのよい取 け，理由を添えて えている。 ・仲間と協力する場面で， 担 た役割に応じた活動の を見付けている。 と話し合う場面で，提 参加の仕方に当て への関わり方 ，性別等 ，仲間と めの練習や う方法を見付 ，仲間に伝えている。	・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を と うとして ・練習の をしたり仲 助言したり ，仲間の学習 援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。

「技能」は
～できる

「思考・判断・表現」は
～伝えている、～選んでいる、～見付けている

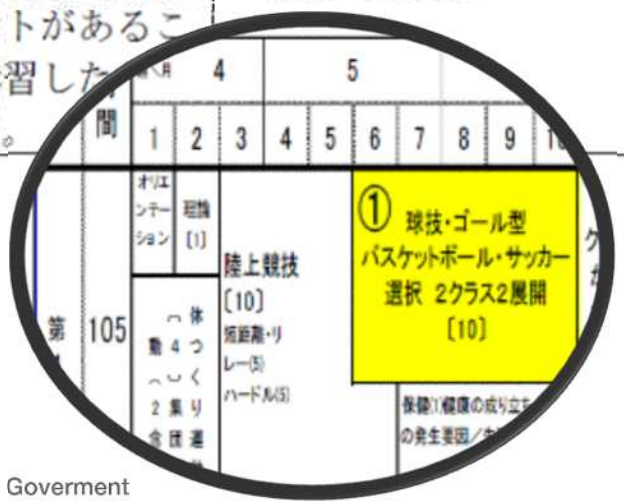
「主体的に学習に取り組む態度」
～しようとしているに変換
安全に留意している

手順４　当該単元における「単元の評価規準」を設定する

P56

表２　Ａ中学校における第１学年球技ゴール型の単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）の例

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。



手順５　具体的な指導内容の明確化を図る

P57

指導の内容は例示ではぼんやり書いてある。それを実際の授業の中で具体的にどんなことをするのか明確にすることが重要

具体的な指導内容

単元の評価規準

知識及び技能		思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
知識	技能		
ゴール型球技は，ドリ…パスなどのボール…手コートに侵入…放ち，一定…ームより…い合うこ…であるこ…団対集…個人で攻…展開し，勝敗を…う楽しさや喜びを…味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ボール操作には，シュートやパス，ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。 ⇩ ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。	守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。 ⇩ ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 フリーの仲間を見付け，相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。 ⇩ ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ボール保持者とゴールが見える位置に移動し，ボールを受ける準備姿勢をとること。 ⇩ ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	成功例，つまずき例などの事例や，シュート，パス，キープのポイントを提示し，仲間の動きと比較し，伝えること。 ⇩ ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え，用具の準備や後片付け，記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。 ⇩ ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 仲間の意見をしっかり聞く，自身の意見を述べるなどの話合いへのマナーを提示し，参加の仕方を見付けること。 ⇩ ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。	仲間の学習を援助することは，自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。 ⇩ ①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 体調の変化などに気を配ること，ボールなどの用具の扱い方や，ゴールの設置状態，練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること，技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。 ⇩ ②健康・安全に留意している。

手順６　指導と評価の計画（10時間）を作成

P57,58

評価の場面を精選することで、記録に残す評価を実施しない時間を設定する

５時間目に評価する材料を２、３時間目に集める（技術の名称など複数ある）

単元の最後に生徒の学習状況の変化を最終的に確認する時間の設定

各指導内容間の関連を図る工夫する

評価方法が主に観察のものについては、同時間に複数評価しない

３　観点別学習状況の評価の進め方

P59

（１）指導と評価の一体化に向けた観点別学習状況の評価の活用

○単元の終末にまとめて行うものとして捉えず、指導場面に対して評価の機会を検討し設定する。

○「努力を要する」状況（C）の生徒に対して手立てを講じることが重要。（これからの評価は、**点から線へのイメージ**）

○「十分満足できる」状況（A）の生徒には、個別の課題を与えるなどの指導を行う。

○形成的な評価をしつつ、生徒の学習状況の記録を付けながら、修正を図り、総括的評価において最終確認し、観点別学習状況の評価を確定する。

4　観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括の考え方

P61

○評価については、各学校が責任をもって行う
その際、各学校内や保健体育科内で共通認識を図り、事前に生徒や保護者に説明していく

（2）各単元における観点別学習状況の評価の総括の例

各観点における学習状況の評価を

A、B、Cの３段階にするか
A°、A、B、C、C△の５段階にするか検討

A、B、Cの**数を基**に総括するか
A=３、B=２、C=1のように**数値**で表し総括するか検討

保健体育科（体育分野）事例２

キーワード：「知識・技能」の評価

単元名　器械運動（マット運動）　第１学年

内容のまとまり

第１学年及び第２学年「B　器械運動」

知識と技能の関連を図りながら指導を充実した上で、知識と技能それぞれの学習状況を生徒に適切にフィードバックできるようにすることが大切である

Ⅰ「知識及び技能」の指導と「知識・技能」の観点別学習状況評価

P62

1　学習指導要領解説における知識の考え方

具体的な知識と汎用的な知識を関連させる

○運動の行い方や健康・安全の確保の仕方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付ける
○運動の技能を身に付けることでその理解を一層深める

2 器械運動（マット運動）における具体的な指導事項及び「知識・技能」の評価

P62

器械運動

個に応じた学習可能な学習課題を提示し、「基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えて行うこと、発展させて行うこと」などの技の難易度とその出来映えといった視点から学習評価を検討することが必要

器械運動の具体的な指導事項

P63

表１　第１学年及び第２学年　器械運動の具体的な指導事項

知識及び技能		思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
○知識 ①器械運動には多くの「技」があり，これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことができること。 ・器械運動は，種目に応じて多くの「技」があり，技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあること。 ・技の名称は，運動の基本形態を示す名称と，運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていること。 ②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること。 ・器械運動は，それぞれの種目や系などにより主として高まる体力要素が異なること。 ・発表会には，学習の段階に応じたねらいや行い方があること。	○技能 ①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ること。 ・開始姿勢や終末姿勢，組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ること。 ・学習した基本的な技を発展させて，一連の動きで回ること。 ②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方，回転力を高めるための動き方，起き上がりやすくするための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転すること。 ・開始姿勢や終末姿勢，手の着き方や組合せの動きなどの条件を変えて回転すること。 ・学習した基本的な技を発展させて，一連の動きで回転すること。 ③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方，バランスの崩れを復元させるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止すること。 ・姿勢，体の向きなどの条件を変えて静止すること。 ・学習した基本的な技を発展させて，バランスをとり静止すること。 ※ここでは，イ，ウ，エは省略している	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えること。 ・提供された練習方法から，自己の課題に応じて，技の習得に適した練習方法を選ぶこと。 ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えること。 ・仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けること。 ②体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け，仲間に伝えること。	・器械運動の学習に積極的に取り組もうとすること。 ・よい技や演技に称賛の声をかけるなど，仲間の努力を認めようとすること。 ①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとすること。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすること。 ②健康・安全に留意すること。

（表中の丸数字は，本事例の第１学年で取り扱う指導事項を示している。）

(1)第１学年における指導事項の整理　P64

「②技の行い方には技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること」

具体的に指導し評価するために、知識の整理をする

能」の具体的指導事項

②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること。

【技（技能）に関連した知識の整理の例】

	汎用的な知識	具体的な知識	方法的な知識
	運動を支える原理，原則，意義 「何のために」行うのか	運動の行い方のポイント・コツ 「どのように」行うのか	課題解決の仕方，運動観察の仕方 「どんな方法で」行うのか（改善できるのか）
接転技群	・順次接触するため ・回転力を高めるため	・おへそを見る ・あごを引く など	・ゆりかご ・大きなゆりかご ・坂道を利用する　など
ほん転技群	・支えるため，突き放すため ・回転力を高めるため ・起き上がりやすくするため	・タイミングよくそる ・大きく足を振り上げる ・手と足の距離を近づける など	・かえるの足うち ・腕立て横跳び越し ・大きなゆりかごからのブリッジ ・段差の利用　など
平均立ち技群	・バランスを保つため ・崩れを復元するため	・視点を意識する ・重心を意識する など	・背支持倒立 ・三角形の印をつける など

技能

①[illegible]マットに順次接触させて回転するための動き方や[illegible]的な技の一連の[illegible]

技		[illegible]）
接転	前転	前転 → 開脚前転 補助倒立前転
	後転	後転 → 開脚後転

②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方，回転力を高めるための動き方，起き上がりやすくするための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転すること。

技群	グループ	基本的な技 （主に小5・6で例示）
ほん転	倒立回転・倒立回転跳び	側方倒立回転 倒立ブリッジ
	はねおき	頭はねおき

③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方，バランスの崩れを復元させるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止すること。

技群	グループ	基本的な技 （主に小5・6で例示）
平均立ち	片足平均立ち	片足平均立ち
	倒立	頭倒立 補助倒立

（2）「単元の評価規準」の設定

P64

（２）「単元の評価規準」の設定

これらの具体的な指導事項を踏まえ，第１学年における器械運動（マット運動）の「単元の評価規準」を下記のとおり設定した。

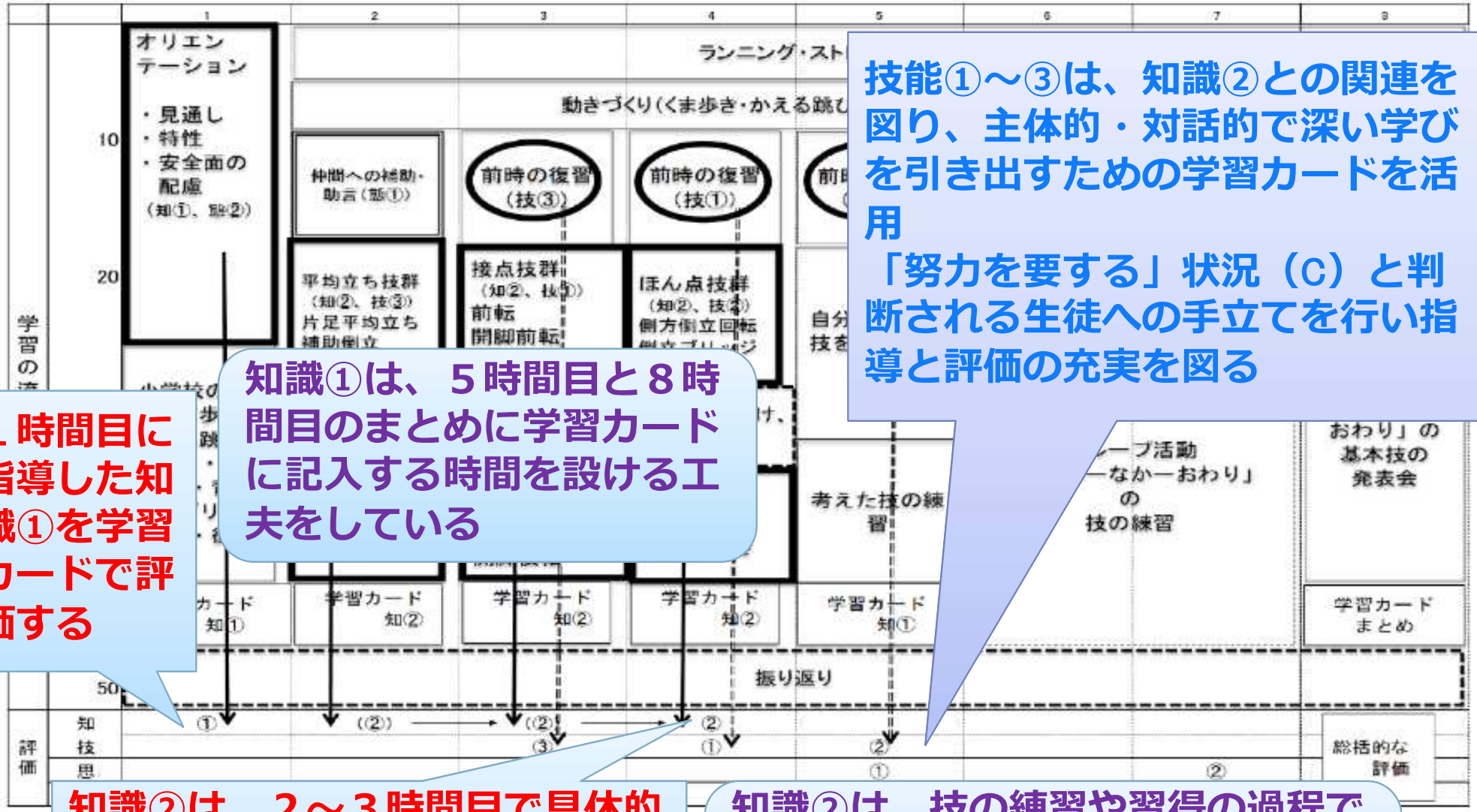
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①器械運動には多くの「技」があり，これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて，言ったり書き出したりしている。 ②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。	○技能 ①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方，回転力を高めるための動き方，起き上がりやすくするための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 ③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方，バランスの崩れを復元させるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け，仲間に伝えている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

語尾を変えて評価規準を設定する

(3) 指導と評価の計画の作成

P64,65

図２　器械運動（マット運動）　第１学年における指導と評価の計画の例



技能①～③は、知識②との関連を図り、主体的・対話的で深い学びを引き出すための学習カードを活用
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立てを行い指導と評価の充実を図る

知識①は、５時間目と８時間目のまとめに学習カードに記入する時間を設ける工夫をしている

１時間目に指導した知識①を学習カードで評価する

知識②は、２～３時間目で具体的な知識と汎用的な知識を組み合わせて指導し、４時間目に学習カードで評価する

知識②は、技の練習や習得の過程でポイントやコツを記述できるようにする。単元の最後に記述する時間を設けるなどの工夫をしている

4 知識の指導と評価の実際

P65

(1)学習カードの工夫

知識①

①器械運動の楽しさについて

【器械運動の楽しさとは何だろう？】（１時間目）
技ができるようになること。
いろいろな技に挑戦すること。
技がきれいにできるようになること。

特性

【技の練習や習得を通じて気が付いた楽しさや喜びを、1時間目の記載に加えて書いてみよう】（5時間目）
器械運動には接転技群やほん転技群、平均立ち技群などいろいろな技があって、自分に合った技で挑戦できる。

【器械運動の楽 】（8時間目）

知識②

②学習した技に をつけておこう）

系	技群	ポイント	挑戦した技	技に応じたポイントやコツを書こう（授業の途中で気が付いたことも加えて記入しよう）	つまずいたときにどうしたらよいかメモを取ろう（気が付いたときにその理由も書いてみよう）	自己評価
回転系	接転技群	・体を順番にマットにつけること ・回転力をあげること	前転	おへそを見る 手を遠くに着く	ゆりかごをする （体を順番につけるため）	1・2・3・(4)・5
			(開脚前転)	手を遠くについて脚を振り上げる またの下に手をついて前かがみになる	坂道を作って行う （回転力をつけるため）	1・2・3・(4)・5
			後転	背中を丸める 脚を勢いよく頭の上に振り上げる	大きなゆりかご （勢いをつけて体を順番につけるため）	1・2・(3)・4・5
	ほん転技群					1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5
巧技系	平均立ち群					2・3・4・5
						2・3・4・5
						2・3・4・5

汎用的な知識

具体的な知識

方法的な知識

生徒が記述した内容が不十分で提出された場合，コメントを記入して返却し，後日内容が追記された場合は，形成的に評価を行う。

（３）「知識」の評価における実現状況を判断する目安と具体例の作成

P66,67

ア　知識①の実現状況を判断する目安と具体例

評価規準（知識①）：器械運動には多くの「技」があり，これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて，言ったり書き出したりしている。

実現状況	判断の目安	具体例（生徒の回答例）
十分満足（A）	本単元の進行に伴って，器械運動の特性が具体的に加筆されている。	・いろいろな技があったけど、自分に合った技を選んで挑戦できるところが楽しい。 ・私は○○の技を選んだけど、自分に合った技ができるようになることが楽しい。 ・発表会のときに、みんな 表ができたことが楽しい
おおむね満足（B）	教師が伝えた器械運動の特性が記述されている。	・いろいろな技に挑戦す ・技ができるようになる ・技の出来映えを認め合
努力を要する（C）	器械運動の特性に関する記述がない。	・友達から教えてもらっ ・体が柔らかい人が上手に

「A・B・C」の実現状況と，その段階の特徴となる判断の目安及び具体例から作成している

イ　知識②の実現状況を判断する目安と具体例

評価規準（知識②）：技の行い方は技の課題を解決するための合理的
ることについて，学習した具体例を挙げている

実現状況	判断の目安	具体例（生徒の回答例）
十分満足（A）	挑戦した技のポイントやコツなどの具体的な知識と汎用的な知識が関連付けて記述されている。	・おへそを見ることで，体が丸まり，マットに後頭部→背中→腰の順番に着くことができる。 ・手を遠くに着くことで回転力が上がる。
おおむね満足（B）	挑戦した技のポイントやコツなどの具体的な知識を記述している。	・おへそを見る。 ・手を遠くに着く。
努力を要する（C）	挑戦した技のポイントやコツが記述されていない。	・頑張って回る。 ・気合を入れる。

5 技能の指導と評価の実際

P66

（１）主体的・対話的で深い学びを引き出すための学習カードの充実

表２　アドバイス・カード（課題発見のための動きの視点カード）：相互観察の際に，自身の段階を伝えアドバイスをもらおう

技の習得の段階（自己申告）		仲間にアドバイスする際の視点	仲間への言葉かけのポイント
1	技の感覚がつかめていない	技の良い見本と比較して，汎用的な知識の視点を踏まえて，感覚づくりの運動などの方法的な知識についてアドバイスをする	良い点を見付けて伝える。 例：○○のために，感覚づくりの運動をやってみよう。 ：大きなゆりかごをやって，○○ができるようにしてみよう。　など
2	できそうな気がする	技の途中の動きなど，技の個々の場面に注目して，汎用的な知識の視点を踏まえて，「どのように」行うのか（具体的な知識）についてアドバイスをする	局面（準備，主要，終末）でのそれぞれの動きのポイントを伝える。 例：△△の場面で手を遠くに着こう。　など
3	たまたまできる		

・生徒自身が、技の習得の段階を自己申告し、その段階に応じて、相互にアドバイスする活動
・実際の授業場面においては、技の行い方について、動きのポイントを示したイラスト、ポイントやコツを示した図解を準備した

(2) 「技能」の評価における実現状況を判断する目安と具体例の作成

P67,68

接転技群の実現状況を判断する目安と具体例

評価規準（技能①）：体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。

基本的な運動課題	実現状況	判断の目安	具体例（特徴的な動き）
滑らかさ 順次接触 回転力	十分満足（A）	体をマットに順々に接触させて回転するための動き方と，回転力を高めるための動き方の技能が十分に発揮され，一連の動きが途切れることなく，タズに回転している。	・スピードに乗れている。 ・動きにメリハリがある。 ・動きが前方へとつながって回転している。
	おおむね満足（B）	体をマットに順々に接めの動き方と，回転力方が見られ，一連の動く回転している。	
	努力を要する（C）	・体をマットに順々に動きのみ見られるがしている。 ・順次接触は見られな	

【「努力を要する」状況（C）と判断され

○　知識の習得状況を確認し，具体的な知をマットに順々に接触させるために「ゆりかご」などの感覚づくりの指導を行う。

○　体を小さく丸くして回れるようになったら，回転力を高めるために腰を大きく開いて回ること（大きなゆりかご）ができるよう指導する。

○　背支持倒立から転がり立ち上がるなどして，順次接触と回転力の感覚づくりを行う。また，場の工夫として坂道などを作り，回転力が高まった時の手の着く位置や体を前傾する感覚をつかませる。

※ほん転技群，平均立ち技群については省略

それぞれの技をよりよく行うことができたかを効果的に評価するために、「Ａ・Ｂ・Ｃ」と判断される生徒の実現状況の判断の目安とその具体例を作成し、それを踏まえて技能の評価を行った

Ⅱ　「知識・技能」の観点別学習状況の評価の総括

１　Ａ、Ｂ、Ｃの組合せに基づいて総括する例

「知識・技能」の総括は、Ａが７，Ｂが６となっていることから、Ａと総括している

表３　Ａ中学校における第１学年１学期の「知識・技能」の総括時の検討例

単元名		体つくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）		値）の例	
時間数		4		10		10			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒X	知	B (2) B (2)	2	A (3) A (3)	2	A (3) A (3)	2	A (2. 67)	A (2. 54)
	技			B (2) B (2) A (3) A (3)	4	B (2) A (3) B (2)	3	B (2. 43)	

「知識」の評価は「Ｂ,Ｂ,Ａ,Ａ,Ａ,Ａ」となり、Ａが半数以上となっていることから、「数の多い方の評価とする」という事前の取り決めによりＡと総括している

「技能」の評価は「Ｂ,Ｂ,Ａ,Ａ,Ｂ,Ａ,Ｂ」となり、Ｂが半数以上となっていることから、「数の多い方の評価とする」という事前の取り決めによりＢと総括している

Ⅱ　「知識・技能」の観点別学習状況の評価の総括

１　Ａ、Ｂ、Ｃを数値に表したものに基づいて総括する例

Ａ中学校で設定した総括の基準の例

Ａ＞2.50　　2.50≧Ｂ≧1.50　　1.50＞Ｃ

表３　Ａ中学校における第１学年１学期の「知識・

単元名		体つくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）			
時間数		4		10		10			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒X	知	B (2) B (2)	2	A (3) A (3)	2	A (3) A (3)	2	A (2.67)	A 54)
	技			B (2) B (2) A (3) A (3)	4	B (2) A (3) B (2)	3	B (2.43)	

「知識・技能」の総括は、「2.54」となり、「知識・技能」の評価は，Ａと総括する

「知識」の評価は、Ｂ(2),Ｂ(2),Ａ(3),Ａ(3),Ａ(3).Ａ(3)となり、数値の合計は「16」となる。「知識」の平均は「2.67」となり、Ａと総括する

「技能」の評価は、Ｂ(2),Ｂ(2),Ａ(3),Ａ(3),Ｂ(2),Ａ(3),Ｂ(2)となり、数値の合計は「17」となる。「技能」の平均は「2.43」となり、Ｂと総括する

○「知識」と「技能」の観点別学習状況の評価を個々に行うことで、それぞれの学習状況を生徒へフィードバックし、生徒自身や教師の学習改善に生かすことが大切

○「知識」と「技能」をバランスよく指導し、バランスよく評価することが大切

○併せて、三つの資質・能力についてもバランスよく指導し、バランスよく評価することが重要

保健分野

2 各事例概要一覧と事例（保健分野）P53

事例５（＊本資料掲載事例）
●指導と評価の計画から評価の総括まで
中２年　「傷害の防止」

事例２（＊本資料掲載事例）
●「知識・技能」の評価　中１年　「心の健康」

事例３
●「思考・判断・表現」の評価
中２年　「生活習慣病などの予防」

事例４
●「主体的に学習に取り組む態度」の評価
中３年　「健康と環境」

単元の評価規準の作成とポイント

P48

「知識・技能」

・解説の文言の文末を変える
（知識：～について言ったり、書き出したりしている）
（技能：～できる）
・知識と技能の評価規準は、１つの中に両方を盛り込む
（＊例えば、技能だけだと、応急手当てができるかできないかで評価してしまう）

「思考・判断・表現」

・単元ごとに、リード文があり、その下に＜例示＞がある
その＜例示＞の文末を変える
（～している）

単元の評価規準の作成とポイント

イ　思考力，判断力，表現力等

傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し，自他の危険の予測を基に，危険を回避したり，傷害の悪化を防止したりする方法を考え，適切な方法を選択し，それらを伝え合うことができるようにする。

〈例示〉

- 傷害の防止における事柄や情報などについて，保健に関わる原則や概念を基に整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見すること。
- 交通事故，自然災害などによる傷害の防止について，習得の生活に適用したり，課題解決に役立てたりして，傷害な危険を予測し，回避する方法を選択すること。
- 傷害に応じた適切な応急手当について，習得した知識や技に合わせて活用して，傷害の悪化を防止する方法を見い
- 傷害の防止について，自他の危険の予測や回避の方法と，それを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合うこと。

中学校学習指導要領解説保健体育P222抜粋

課題発見、思考判断、表現

例示がすべての学習活動に当てはまるとは限らない
指導者がどのような指導をするかで評価規準は変わるので、ただ語尾を変えるだけでなく工夫が必要になる

単元の評価規準の作成とポイント

P49

「主体的に学習に取り組む態度」

・保健分野の目標、観点の趣旨等を参考に作成する
特に「自主的に取り組もうする」
→観点の趣旨からもってきた
　文末の表記は、（～しようとしている）

キーワード

：指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名
傷害の防止

内容のまとまり
第２学年　（３）傷害の防止

目標は３つの資質能力で書く

（　　）でラベルを付けるなら、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」になる

１　単元の目標

(1)　交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因，交通事故による傷害の防止，応急手当の意義と実際について，理解すに，心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるように

(2)　傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し，自他の危険の予測を基に，危険を回避したり，傷害の悪化を防止したりする方法を考え，適切な方法を選択し，それらを伝え合うことができるようにする。

(3)　傷害の防止について，自他の健康の保持増進や回復につ
することができるようにする。

保健分野で技能がないところは、知識のみを書く

2 単元の評価規準

P82

評価規準名は、全教科共通。技能があってもなくても「知識・技能」と書く

「単元の評価規準」は、これまでの、「学習活動に即した評価規準」
今回は、単元が全８時間なので、その中で評価規準を３観点で９つに精選した

「知識」は、解説の文末を「～について、理解したことを言ったり、書いたりしている」
「技能」は、解説の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり、書いたりしているとともに（～が）できる」として作成する

「思考・判断・表現」は、例示が４つあるが、３つに絞り込んだ。その際、例示に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせて、文末を「～している」として、作成する

「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容を踏まえ、文末「～しようとしている」として、評価規準を作成する

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通事故や自然災害などによる傷害は，人的要因，環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することについて，理解したことを言ったり書いたりしている。 ②交通事故などによる傷害を防止するためには，人的要因や環境要因に関わる危険を予測し，それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であり，人的要因に対しては，安全に行動すること，環境要因に対しては，交通環境などの整備，改善をすることがあることや，交通事故を防止するためには，自転車や自動車[illegible]を知り，交通法規を守り，周囲の状況に応じ，安全に行動することが必要であることついて，理解したことを言ったり書いたりしている。 ③自然災害による傷害は，例えば，地震が発生した場合に家屋の倒壊などによる危険が原因となって生じることや，地震に伴って発生する津波などの二次災害によっても生じること。また，自然災害による傷害の防止には，自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることついて，理解したことを言ったり書いたりしている。 ④傷害が発生した際に，迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることや，応急手当には止血や患部の保護や固定があり，その方法について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，実習を通して包帯法や止血法としての直接圧迫法ができる。 ⑤心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当には，気道確保，人工呼吸，胸骨圧迫，AED 使用などの心肺蘇生法があり，その方法について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，実習を通して胸骨圧迫，AED 使用などの心肺蘇生法ができる。	①傷害の防止について，それらに関わる事柄や情報などを整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見している。 ②自然災害などによる傷害の防止について，習得した知識を自他の生活に適用したり，傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして，傷害を引き起こす様々な危険を予測し，回避する方法を選択している。 ③傷害の防止について，自他の危険の予測や回避の方法と，それを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。	①傷害の防止について，課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画(8時間)

P83～

	1	2	3	4	5	6	7	8
	交通による	防止	交通事故などによる傷害の	自然災害による傷害の防止		応急		まと
知識・技能	◎			○	◎	○	◎	
思考・判断・表現			◎	◎				◎
主体的に学習に取り組む態度	○							◎

ワークシートを中心としつつ、観察で補うことも考えられる。ワークシートによる評価においては、評価する観点に応じた項目を設定することが重要

記録に残す評価を行わない。知識は７時間目に記録に残すため、６時間目は指導に活かす評価をする

「主体的に学習に取り組む態度」は、８時間目に記録に残すのは、単元を通して徐々に高まるため、その変容を見る

＊◎は記録に残す評価→多くても１時間に１つくらい（８時間目は総括のため２つ）
＊○は重点的に生徒の学習を見取る
＊重点としていない観点についても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に活かすために、生徒の学習状況を確認することが重要である

４　観点別学習状況の評価の進め方

P86

（１）基本的な考え方

・知識や技能を確実に習得し、それらを自分たちの生活に当てはめたり、関連付けたりして学習を進められる授業づくりをし、それを踏まえた指導と評価を進めていく

・評価を効果的・効率的に進めるために、３観点の評価を重点化する必要がある

・事例は、第１時から第７時は、１観点として重点化し、単元のまとめとなる第８時のみ２観点とした

「知識・技能」

・**実習を通して理解を深め**、基本的な技能を身に付けている学習状況を確認できるようにする
（技能と知識の両面を相対的に捉える）

・実習については、技能の出来栄えのみを評価するのではなく、知識と一体的に評価することを留意したい

「思考・判断・表現」

・ワークシートを中心としつつ、観察で補うことも考えられる

ワークシートだけに特化せず、多面的に評価する

「主体的に学習に取り組む態度」

- 事例の第１時では、教師の指導改善につながる評価を行うこととした
- 「努力を要する」状況と判断した生徒へは、**手立てを講じて継続した指導**を行い、第８時に記録に残す評価場面を設定し、**変容を見取る**ことができるようにした
- 単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価することでないことに留意したい
- 自らの学習状況を把握し、学習を調整しながら、粘り強く取り組もうとしているかどうかという意思的な側面を評価する

5 □観点別学習状況の評価の総括

P89

（1）評価結果のＡ，Ｂ，Ｃの数を基に総括する

「ＡＡＢＢ」など同数の場合や三つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく

	観点＼時	1 傷害の発生要因	2 交通事故 傷害						8 実際	総括
評価機会	知・技	①	②						—	
	思・判・表	—	—						③	
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	①	
生徒1	知・技	A	B	—	—	A	B	A	—	A
	思・判・表	—	—	B	A	—	—	—	A	A
	主体的態度	—	—	—	—	—	—	—	A	A
生徒	知・技	B	C	—	—	C	B	C	—	C
	思・判・表	—	—	B	B	—	—	—	C	B

単元の総括
Ａが半数を超える場合にはＡ
Ｃが半数を超える場合にはＣ
それ以外はＢ
ＡとＣが同一観点に混在する場合はＢとする考え方に立って総括を行った

「知識・技能」、「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後にワークシートや定期テスト等からも評価することで、評価の信頼性を高めることができる

（２）評価結果のＡ、Ｂ、Ｃを数値に置き換えて総括する

	観点＼時	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	総括
生徒1	知・技	3	2	–	–	3	2	3	–	2.60	A
	思・判・表	–	–	2	3	–	–	–	3	2.67	A
	主体的態度	–	–	–	–	–	–	–	3	3.00	A
生徒2	知・技	2	1	–	–	1	2	1	–	1.40	C
	思・判・表	–	–	2	2	–	–	–	1	1.67	B
	主体的態度	–	–	–	–	–	–	–	2	2.00	B

単元の総括
Ａ、Ｂ、Ｃを、
Ａ＝３、Ｂ＝２、Ｃ＝１のように
数値によって表して、平均すること で総括することができる

総括の結果をＢとする範囲を
［2.5≧平均値≧1.5］とすると、
平均値が2.5 を上回る場合はＡ、
平均値が1.5 未満の場合はＣとなる

保健体育科（保健分野）事例６

P90

キーワード：「知識・技能」の評価

単元名　心の健康

内容のまとまり

第１学年（２）
心身の機能の発達と心の健康

5 観点別学習状況の評価の進め方

（１）基本的な考え方

・本単元では、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができるようにするために、「技能」として、リラクセーションの方法等を取り上げている

・ワークシートの項目を工夫することが重要である

・既有の知識及び技能と関連付けたり、活用したりする中で、生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を身に付けたりしているかについても評価できるように工夫することも考えられる

・実習における評価場面では、ストレス対処の技能だけでなく、知識と一体的に評価することに留意したい

（２）本時における知識・技能の評価の例 P93

【観察の視点】

・リラクセーションの手順や行い方のポイントなどを押さえながら実習に取り組んでいる状況を確認する。
・リラクセーションの実習により，心身の負担が軽くなるような心の状態の
ほぐれ
態
心
・リラクセーションの方法の出来映えを評価するものではない。

【ワークシートの項目】

・リラクセーションの意義や手順，行い方のポイントなどを記入できる内容
・実習を通して理解したことを記入できる内容

【ワークシート（実習を通して理解したこと）
リラクセーションの方法について，手順や行い
行う意義等，実習を通して理解したことを具体的に記入できていれば，「十分満足できる」状況とする。ここでは，一例として，腹式呼吸の実習に関する記述を掲載する。

評価	「十分満足できる」状況		
記載例・	・腹式呼吸の実習では，体の力を抜いて，ゆっくりとお腹を膨らませて呼吸をすると緊張がほぐれることがわかっ	行った腹式呼吸では，ゆっくりと息を吸って吐	の中で学習したことと同様の経験がないか振り返るよう助言する。

ワークシートの項立てを工夫する

ワークシート等に記入する時間を十分確保する

観察の視点を明確にする

科学的に理解できるようにするとともに、内容にかかわる基本的な技能を身に付けることを目指す

→実習を取り入れ、知識と技能の関連を図る